

本時の見どころ

球磨人吉地方には、相良 700 年の歴史があり、2015 年には文化庁によりそれら一円の文化財やストーリーが日本遺産に指定されました。本授業では、南北朝時代の球磨人吉地方の状況を資料から考え、南北朝とはどのような時代だったのかを考えます。

社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 平成 28 年 11 月 29 日（火）

場 所 あさぎり中学校 1 年 1 組 教室

年 組 あさぎり町立あさぎり中学校 1 年 1 組
男子 18 名 女子 20 名 計 38 名

指導者 あさぎり町立あさぎり中学校 教諭 村上 武史

1 単元名 「中世の日本」（東京書籍 p.63～p.79）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、歴史的分野の「2 内容 (3) 中世の日本 ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動を通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。」ことをねらいとしている。

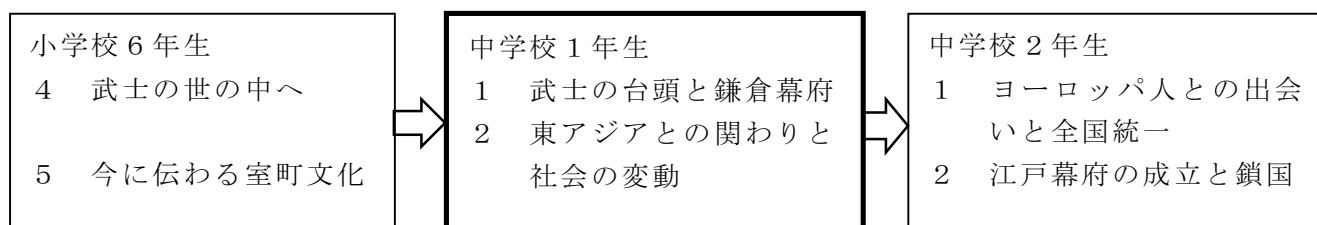
本単元は、日本における中世という時代で、大きく鎌倉時代と室町時代に分けられる。鎌倉幕府の成立では、武士勢力がそれまでの貴族勢力にとって代わり、東国を中心に本格的な武家政権を樹立し、展開していった。鎌倉幕府は、源頼朝との主従関係を通して、東国を拠点として勢力を拡大させ、承久の乱後には東国武士の支配は西国まで及び、幕府政治の基礎は固まった。その後、鎌倉幕府が滅び、建武の新政を経たのち、南北朝時代を迎える。南北朝の争乱は約 60 年も続き、全国化する。長期化・全国化した理由の 1 つとして、惣領制の解体と単独相続の一般化がある。これらは、鎌倉時代から受け継がれてきた、血縁的結合を主とした武士団が、地縁的結合を重視する形へと変化したことにつながっていくものとなった。その後、足利義満が南北朝を統合し、室町幕府が全国的な影響力を示すが、応仁の乱後には下剋上の風潮が広がり、日本は戦国時代を迎える。

【研究テーマとの関連：教材選択の条件】

球磨人吉地方には鎌倉時代から江戸末期まで約 700 年間にわたって統治した相良氏がある。鎌倉から江戸までにいくつかの大きな危機に直面するが、当主の側近たちの努力によって回避された。南北朝時代は 1 つの危機となっており、上相良と下相良の争いや薩摩の島津氏との関わりなど、史実として明らかにされていないことも多い。しかし、当時の当主や側近たちが情報を集め、状況と立場を考えながら物事を決断し、危機を乗り越えることができている。それらの危機を乗り越えた結果、700 年の所産として相良氏に関わる文化財が、各地に数多く残されている。それらは『相良 700 年が生んだ保守と進取の文化』として 2015 年に文化庁から日本遺産に指定された。鎌倉時代に遠江国（現在の静岡県西部）からやってきた相良氏が、球磨人吉地方を統治し、南九州の中で有力な大名として成

長した。約 700 年を統治し続けるためには、周囲の情報を集積し、自らが生き残る戦略を立て続け、実行してきた。このような地域素材を通史と組み合わせて学ぶことで歴史を身近なものとして感じ、そこから時代を大観することは、教材選択の条件における「具体性」があると考ええる。

(2) 系統観



(3) 生徒観

本学級の生徒(男子 18 名 女子 20 名 合計 38 名)は、明るく元気な学級である。社会科には興味・関心が高く、落ち着いて学習に臨むことができる。標準学力テストの結果を見ると、全体的には平均値程度を示している。学習に際して数人に個別な声かけなど、さりげない支援を必要とする。

本時の学習に関するアンケート結果を見ると、以下の通りである。なお、問 1・問 2 は本学級の認知に関する実態であり、問 3 以降は本時の学習に関するアンケート結果である。

問 1	あなたは重要語を覚えるときに、自分がどのようにしたら覚えられと思いますか。	割合
1	重要語をノートに何度も書く。	19%
2	重要語がのっている問題集を繰り返し解いて覚える。	22%
3	重要語を何度も声に出して言い、耳に覚えさせる。	16%
4	授業中に先生が黒板に書いたり、教科書に書いてある文字を見て、写真のようにして覚える。	11%
5	音読をしながら、重要語を教科書の文章の流れでイメージして覚え	8%
6	友達と問題を出し合いながら、その場面のイメージで覚える。	17%
7	よくわからないし、重要語が覚えられない	6%

問 2	あなたの認知の特性はどのタイプですか。	割合
視覚優位タイプ	目で見た情報が認知しやすく、理解しやすい。	53%
言語優位タイプ	目で見たり、音で聞いたりした情報を言語に転換した方が理解しやすい。	34%
聴覚優位タイプ	耳で聞いた音の情報が認知しやすく、理解しやすい。	13%

問 3	次の人々の政治について、どのようなイメージを持っていますか。
天皇の政治	自分中心に考えられた政治 (4 人) 1 人で政治を行うので、安定している (4 人)
貴族の政治	気楽に遊びながらやっているイメージ (8 人) 位が厳しく、身分の差が厳しいイメージ (3 人) 不安定な感じ (2 人)

	派手で華やかなイメージ（1人）
武士の政治	争うことが多く、戦ってばかりいるイメージ（16人） みんなで協力していこうというイメージ（1人） 命が軽いイメージ（1人）

問4	あなたは武士についてどのようなイメージを持っていますか。
	争い続ける人たち（13人） 強くて荒々しく怖い（12人） 日本刀・鎧（8人） 自分の領地について戦う（2人） やると決めたら貫き通す（1人） 御恩と奉公（1人）

問5	球磨人吉地方が2015年に日本遺産に認定されたことは知っていますか。		
はい	31%	いいえ	69%
問6	球磨人吉地方で日本遺産について知っていることを書いてください。		
	青井阿蘇神社（9人） 谷水薬師（1人）		

問7	次の言葉について知っていますか。	
1	相良氏	説明できる16% 名前は知っている68% 全く知らない13% 読めない3%
2	南北朝	説明できる3% 名前は知っている49% 全く知らない41% 読めない8%
3	日本遺産	説明できる32% 名前は知っている55% 全く知らない11% 読めない3%
4	織月城	説明できる0% 名前は知っている14% 全く知らない43% 読めない41%
5	雀が森合戦	説明できる0% 名前は知っている11% 全く知らない56% 読めない33%

問1の用語の覚え方については、様々な学習方法に取り組んでいる生徒が多く、その生徒に合った学習方法が求められていることが分かった。その覚え方については、問2の認知の特性に関するアンケートを参考にすると、本学級には視覚優位者が多いことが分かった。問3では、小学校で学習した内容の政治のイメージを聞いた。天皇は、自分中心である政治を行っているというイメージを持っている生徒が多かった。貴族は、気楽に遊びながらやっているというイメージが多く、武士は、戦い続けているというイメージが多かった。問4では、武士に対するイメージを聞き、「争い続ける人たち」や「強くて荒々しく怖い」というイメージが強かった。一人だけ、「やると決めたら貫き通す」というイメージを持っていた。問5では、約7割の生徒が日本遺産に球磨人吉地方が認定されたことを知らなかった。問6では、地域に関する用語を聞いた。1から3の言葉については、「名前は知っている」と答えた生徒が多かったが、4と5は知らない生徒が多かった。

(4) 指導観

生徒の実態に応じて、次のように指導を行う。

- ・生徒が興味関心を持ちやすいように、発問の工夫をしたい。
- ・生徒が球磨人吉地方の南北朝の動きが分かりやすいように電子黒板を活用して、視覚的に

も意識しやすいよう配慮したい。

- ・班活動で班活動の内容に差が生まれないように、班のメンバーを意図的に構成したい。
- ・支援の必要な生徒に関しては、机間支援を数多く行い、生徒が無理なく学習が進められるようにしたい。
- ・各時代を振り返った時に、生徒が学習した時代を大観し、自らの言葉で時代を表現することに挑戦したい。そして、その表現する言葉の中に、球磨人吉の歴史も組み入れた表現になるように挑戦してみたい。

3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	○武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界との関わりに対する関心を高めさせ、意欲的に活動させる。 ○日本の伝統文化に対する関心を高めさせ、今日に残る中世の文化や文化財を尊重させる。
社会的な 思考・判断・表現	○武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界との関わり、文化の特色などについて、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
資料活用の技能	○中世の政治の展開、経済の発達と社会の変化、文化の広がりに関するさまざまな資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させたり、読み取らせたり、図表などにまとめさせる。
社会的事象についての 知識・理解	○武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長を、東アジア世界との関わりを背景に理解させ、その知識を身につけさせる。 ○中世の文化の特色と、その中に現在に結びつくものが見られることに気付かせ、その知識を身につけさせる。

4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全9時間 本時9／9）

次	時	学習活動	評価
1	1	「武士の成長」 ○武士が次第に勢力を広げていったことを都や地方で起きた戦乱の様子などから理解する。	○武士が成長していったことを、政治の動きと関連付けて考察している。（ノート）【思考・判断・表現】
単元を貫く課題：鎌倉時代から南北朝にかけて、武士がどのように成長し、変化していったのか。			
2	1	「武士の政権の成立」 ○武士が政権をにぎった過程について、平清盛を通して理解する。	○平氏の政治の特色を、摂関政治との共通点に着目して考察し、その結果を適切に表現している。（ノート）【思考・判断・表現】
3	2	「鎌倉幕府の成立と執権政治」 ○将軍と御家人の関係に着目して、武家政権の特色を考える。 ○武家政権が東国に生まれ、支配力を広げていった様子を、幕府	○文書資料から、幕府と朝廷との勢力関係、将軍と御家人との関係を読み取っている。（ノート）【技能】 ◇鎌倉時代の球磨人吉の様子について関心を持ち、意欲的に学習している。（ノート）【関

		と朝廷の関係などから理解する。 ◇鎌倉時代に球磨人吉地方にやってきた相良氏の経緯と影響について理解する。	心・意欲・態度】
4	1	「武士と民衆の生活」 ○鎌倉時代の武士の生活の様子を、絵巻物や文書資料などを通して理解する。	○絵巻物などの資料から、武士の生活の様子を読み取っている。(ノート)【技能】
5	1	「鎌倉時代の文化と宗教」 ○代表的な事例を通して、鎌倉時代の文化の特色を理解する。	○鎌倉時代の仏教が人々の間に広まったことを、教えの特色や社会の動きと関連させて考察している。(ノート)【思考・判断・表現】 ◇モンゴルの襲来に対して、相良氏が奉納した銅製経筒について意欲的に調べている。【関心・意欲・態度】
6	1	「モンゴルの襲来と日本」 ○ユーラシア大陸での動き、モンゴルの襲来と日本の対応について理解する。 ○鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考える。	○モンゴルの襲来が国内の政治におよぼした影響を、御家人の動きから考察している。【思考・判断・表現】 ◇相良氏がモンゴルの襲来に対してどのような行動をしたのか、関心を持つことができる。【関心・意欲・態度】
7	1	「南北朝の動乱と室町幕府」 ○建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。	○建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を考察している。(ノート)【思考・判断・表現】
8	1 本 時	「南北朝の動乱と球磨人吉の武士」 ◇南北朝における、球磨人吉地方の武士の動きについて考える。 ◇鎌倉期から南北朝までを大観し、時代の特色をまとめる。	◇南北朝時代における球磨人吉の武士の動きを資料から読み取ることで、全国の武士がなぜ南北朝に分かれて戦ったのか理由を理解する。【知識・理解】 ◇南北朝時代における球磨人吉や全国の武士の動きを資料から読み取ることで、鎌倉時代と比較した南北朝による武士の変化を説明する。(ノート)【思考力・判断力・表現力】

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- 南北朝時代における球磨人吉や全国の武士の動きを資料から読み取ることで、全国の武士が南北朝に分かれて戦ったのか理由を理解できる。(社会的事象についての知識・理解)
- 南北朝時代における球磨人吉や全国の武士の動きを資料から読み取ることで、鎌倉時代と比較した南北朝による武士の変化を説明できる。(社会的な思考力・判断力・表現力)

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等	
導入	10	1 武士のイメージを整理する。 ・教科書を音読する。	一斉	○前時のデータを示し、武士のイメージを想起させる。 ・一所懸命 ・主従関係	電子黒板	
展開	17	2 学習課題を確認 鎌倉時代と比べ、南北朝時代の武士の土地支配はどのように変化したのか。				
		3 球磨人吉の資料を知る。 ○南北朝の球磨人吉地方の資料を見て、考える。 ○全国の資料を想起させる。	個人 ペア 一斉	○年表を見て、四角に入ることばを考えさせる。 ・土地の支配を認めてもらうということがポイントになっているようだ。 ○球磨人吉でも全国でも同様のことが起こっていたということを感じさせる。	評価① (ノート)	
	20	4 南北朝の武士の変化についてまとめる。	個人 班 発表	○最初の武士のイメージにも触れ、学習課題に迫る文章を考えさせる。 【表現例】 ・鎌倉時代の武士は一所懸命などのイメージがあったが、南北朝時代には武士は自らの土地を守ってもらえるかで北朝方か南朝方につくかで悩んでいた。全国にもこのような動きが見られた。	評価② (ノート) 資料 ホワイトボード	
まとめ	3	5 次時の見通しを立てる。	一斉	○次時の全国の流れ、球磨人吉の流れについて伝える。		

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評価① (ノート)	A：南北朝時代における球磨人吉の武士の動きを資料から読み取ることで、全国の武士がなぜ南北朝に分かれて戦ったのか、自らの力で目的を理解することができる。 B：南北朝時代における球磨人吉の武士の動きを資料から読み取ることで、全国の武士がなぜ南北朝に分かれて戦ったのか、友達と協力して目的を理解することができる。
評価② (ノート)	A：南北朝時代における球磨人吉の武士の動きを資料から読み取ることで、南北朝による武士の変化を、球磨人吉の資料を踏まえて説明することができる。 B：南北朝時代における球磨人吉の武士の動きを資料から読み取ることで、南北朝による武士の変化を説明することができる。